

草津市立矢倉小学校通信 平成31年2月15日 NO.18



# やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

## 思いを強くし、学ぶ姿勢を生み出す

先日、甥っ子のしんちゃん宅を訪問した。夕方遅くのことであった。早く中に入れてもらおうと立て続けに呼び鈴を鳴らした。しばらくして、カチャリとカギの開く音がした。しんちゃんが迎えてくれたのだが、そこにはなんとも言えない光景が広がっていたのだ。足の踏み場もないほどに、たくさんの靴と、おそらく上がり口と思われるところから、甥っ子たちの野球のユニフォームやら防寒着、いくつものグローブにバットが入り乱れ、大きな鞆からは、これまた大きな水筒が顔をのぞかせていたのである。しんちゃん兄弟3人分のグッズがそこら中に爆発している。きつい練習から解放され、やっと家にたどり着いて、競争するようにリビングに上がり込んだに違いない。一部始終のやりとりが想像できる。

庭先の飛び石を渡るようにしてリビングに入ると、一つ上の姉と二人の弟たちは、しんちゃんと一緒におやつを食していた。「すごいなあ、玄関。」と挨拶とは言えない挨拶をした途端、居合わせた大人達は口々に、「いつもいつもでね。いくら片付けるように言っても片付けをせず、宿題も試験勉強もせず…」とため息交じりの言葉が発せられた。パンを食べ終わったところを見計らって、しんちゃんに「あれではよくないから一緒に片付けようか。」とささやいた。

いつになく素直に従うしんちゃんの、玄関先での整理整頓に立ち会いながら、私は思わず説教めいたことを語ってしまった。

「…プロになるとか、甲子園に出たいとか思っているなら、遠征に行ったり、合宿したりしないといけないはずだ。今のままだとみんなに心配かけて、迷惑をかけてしまうのと違うかなあ。少しずつ自分を変えていかないと。道具を大事にすることや整理整頓することは、大事なことに集中できる環境を自分からつくることになるはず。よい選手になる以前に、まずよい生き方ができないと。しんちゃんには、よい選手になって、プロとして活躍して欲しい。おじさんの夢にもなっている。がんばってほしいんだ…。」

以前のしんちゃんなら、ここまで語ると、していることを途中で投げ出し、うなだれてどこかへ消えていくことが多かったのだが、今回は整理整頓の手を休めず、じっと聞いてくれていた。やがて「ぼくな、行きたい高校がある。入学試験がある学校だから、勉強して合格しないとだめなんや…。」彼なりの人生設計、見えてきたことのようなものをぼつりぼつりと語り出した。

荷物の整理も終わり、リビングに戻った。そこにいた大人達に言った。「ちゃんと、しんちゃん、かたづけたよ。しんちゃんも随分大人っぽくなって、しっかりしてきたなあ。」と。これを聞いた一つ上の姉は、「父ちゃんに怒られるからかなあ、いつまで続くかなあ。」そうして、にぎやかなリビングが、いっそうにぎやかになった。夢を抱き、その実現に向けてどうしていくか真剣に考えられるようになれば、そのための取組をきちんと生み出すものだ。学ぶこと、勉強することについてもそれなりの覚悟が持てるようになってくるものだと嬉しくなった。

そんな中、末っ子のみっちゃんは、すっと姿を消した。どうしたのかと思っている私を、今度は「玄関に来て欲しい」と呼びに来た。行くと、なんときれいに靴がそろえてあるではないか。おじいちゃんの靴は手すりの近くにおばあちゃんの靴と並んで、日頃使わないような靴は隅に、怒ると恐い父ちゃんの靴は中央に…。実によく考えられた並びだ。「ぼくなあ、くつをそろえてん。」その言葉に、しんちゃんの話以上に感動した私だった。

校長 大林 道範